

# 目標指標と進行管理

令和4年11月29日(火)

建設部 都市計画課

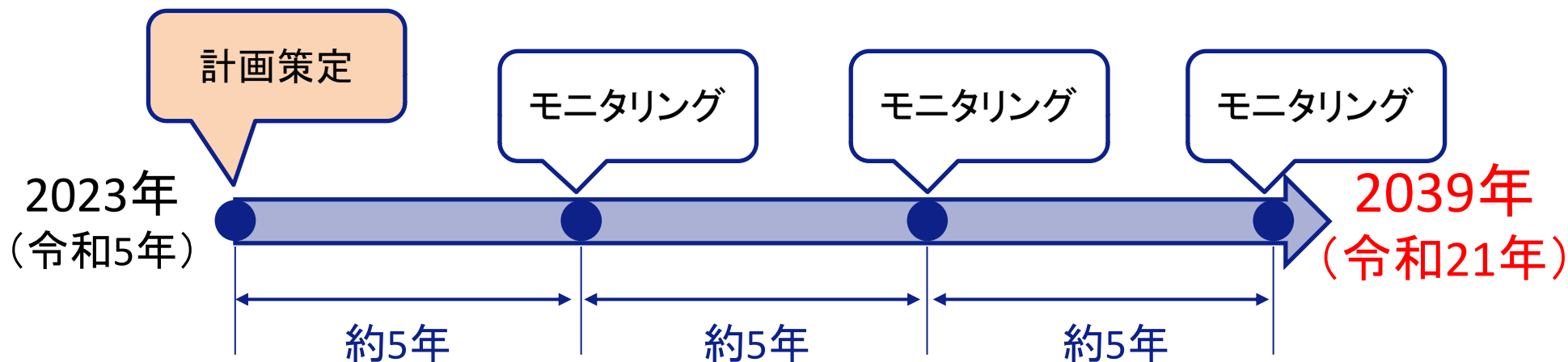
# 目次

---

1. 目標指標・効果指標とは
2. 目標指標・効果指標の検討
3. 目標値の検討
4. 進行管理

# 1. 目標指標・効果指標とは

- **目標指標**とは、誘導施策の進捗状況やその妥当性等を精査・検討するために定めるものである。
- あわせて、目標指標を達成した際に期待される効果を評価する指標として**効果指標**を定める。
- 目標指標・効果指標それぞれに対し、定量的な**目標値**を定める。
- 概ね5年ごとのモニタリングにより、目標値が達成されているかどうかの評価を行い、必要に応じて計画内容の見直しを行う。



※必要に応じて計画内容を見直し

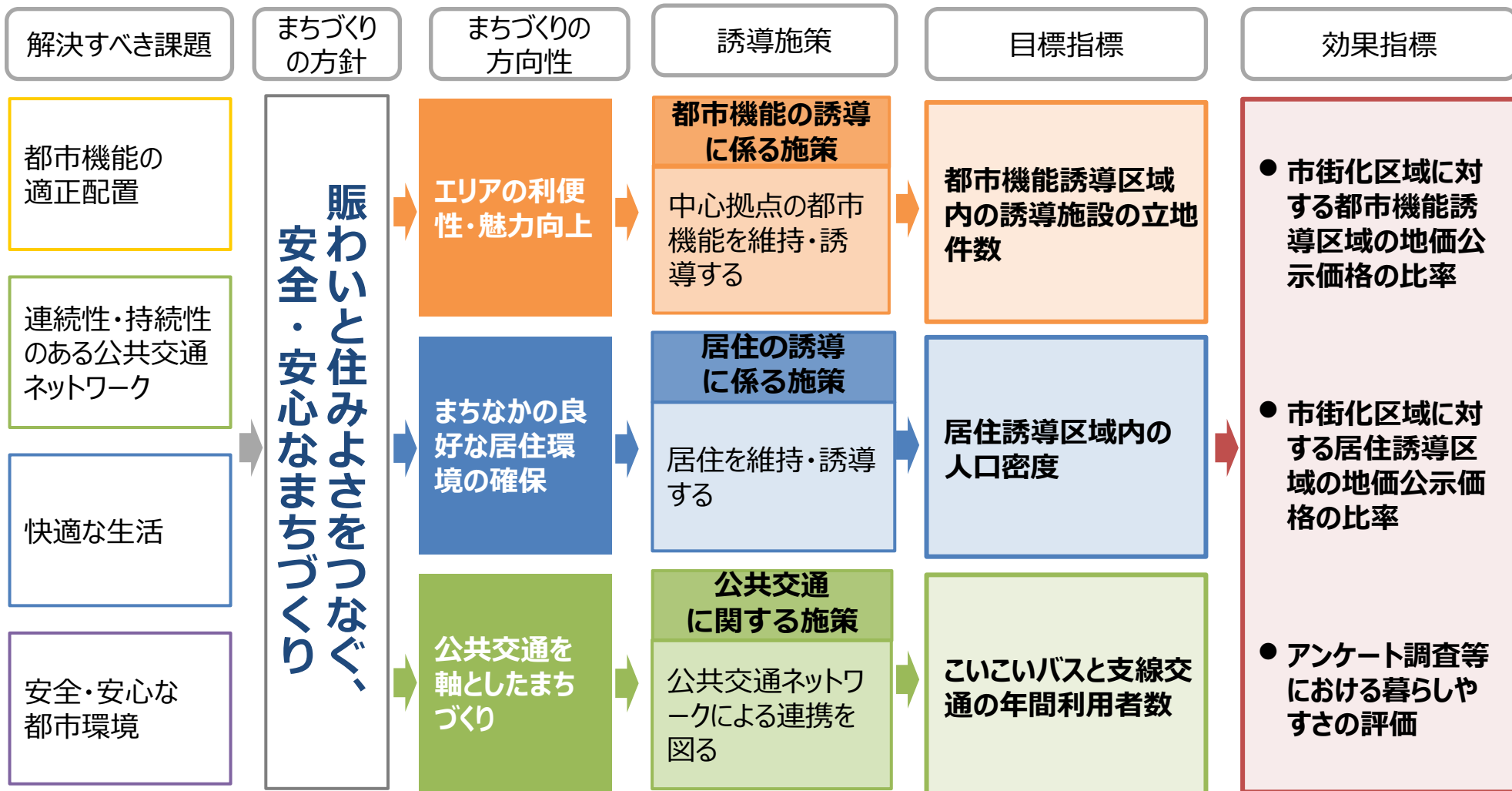
# 目次

---

1. 目標指標・効果指標とは
2. 目標指標・効果指標の検討
3. 目標値の検討
4. 進行管理

## 2. 目標指標・効果指標の検討

- 解決すべき課題やまちづくりの方針・方向性、誘導施策を踏まえて、以下の目標指標を定める。
- あわせて、期待される効果を評価するため、以下の効果指標を定める。



## 2. 目標指標・効果指標の検討

- 目標指標の考え方は、以下の通りである。

### 目標指標の考え方

### 目標指標

#### 都市機能の 維持・誘導

- 都市機能誘導区域内の利便性を維持し、魅力を向上させていくためには、誘導施設を維持・誘導していく必要がある。
- 行政機能や介護・福祉機能等の既に充足している都市機能については現状を維持し、不足している都市機能である商業機能については、新たに誘導を図ることにより、適切に機能配置された魅力あるまちの形成につながる。

都市機能誘導区域内  
の誘導施設の立地件数

#### 居住の 維持・誘導

- 良好な居住環境を維持するためには、人口密度を維持していく必要がある。
- 居住誘導区域内の居住の維持・誘導を図り、居住誘導区域内で現在の市街化区域内と同等の人口密度を目指すことにより、コンパクトシティが実現され、コミュニティが保たれた生活利便性の高い居住環境の形成につながる。

居住誘導区域内の人口  
密度

#### 公共交通の 維持・連携

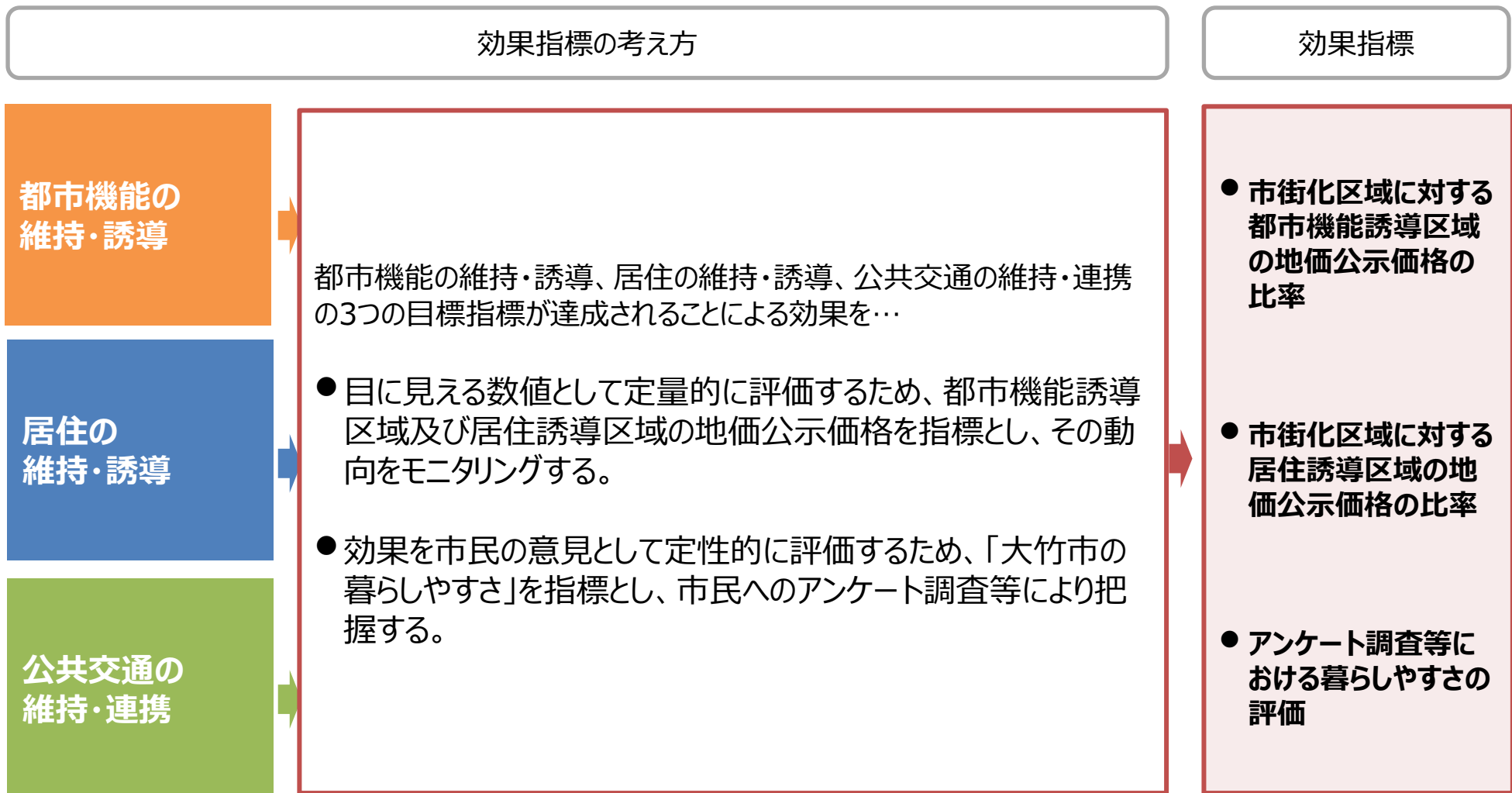
- 都市機能や居住の維持・誘導を図るためには、都市機能誘導区域内や居住誘導区域内を循環する公共交通を維持していく必要がある。
- 現在の「こいこいバス」と支線交通<sup>※1</sup>を維持していくことにより、都市機能誘導区域と居住誘導区域との連携が図られ、賑わいの創出につながる。

こいこいバスと支線交通  
の年間利用者数

※1：三ツ石地区乗合タクシー、ひまわりタクシー、湯舟のりあいタクシー、栄ぐるりんタクシー、あじさいタクシー

## 2. 目標指標・効果指標の検討

- 効果指標の考え方は、以下の通りである。



# 目次

---

1. 目標指標・効果指標とは
2. 目標指標・効果指標の検討
3. 目標値の検討
4. 進行管理



### 3. 目標値の検討

- 目標指標の考え方に基づいて、目標年次である令和21（2039）年時点の目標値を以下の通り定める。
- なお、基準値は現時点、またはデータの存在する直近時点の値を示している。

〔目標指標の目標値〕

分類	目標指標	基準値	目標値
都市機能の誘導	都市機能誘導区域内の誘導施設の立地件数	54件 (令和4年)	55件 (令和21年)
居住の誘導	居住誘導区域内の人口密度	34.5人/ha <sup>※1</sup> (令和4年)	現状維持 (令和21年)
公共交通	こいこいバスと支線交通 <sup>※2</sup> の年間利用者数	104,269人 (令和3年)	現状維持 (令和21年)

※1：令和4年の市街化区域（工業専用地域を除く）内の人口密度

※2：三ツ石地区乗合タクシー、ひまわりタクシー、湯舟のりあいタクシー、栄ぐるりんタクシー、あじさいタクシー

### 3. 目標値の検討

- 効果指標の考え方に基づいて、目標年次である令和21（2039）年時点の目標値を以下の通り定める。
- なお、基準値は令和4（2022）年時点の値を示している。

〔効果指標の目標値〕

効果指標	基準値	目標値
市街化区域に対する都市機能誘導区域の地価公示価格の比率	1.43※ <sup>1</sup> (令和4年)	基準値以上※ <sup>3</sup> (令和21年)
市街化区域に対する居住誘導区域の地価公示価格の比率	1.09※ <sup>2</sup> (令和4年)	基準値以上※ <sup>3</sup> (令和21年)
アンケート調査等における暮らしやすさの評価 (大竹市の暮らしやすさについて、「総じて暮らしやすい」と回答した割合)	57.6% (令和4年)	基準値以上 (令和21年)

※1：都市機能誘導区域内の基準点2地点（住居表示）における地価公示価格（国土交通省、令和4年1月1日）の平均値を市街化区域内の全ての基準点7地点（住居表示）における地価公示価格（国土交通省、令和4年1月1日）の平均値で除して算出

※2：居住誘導区域内の基準点6地点（住居表示）における地価公示価格（国土交通省、令和4年1月1日）の平均値を市街化区域内の全ての基準点7地点（住居表示）における地価公示価格（国土交通省、令和4年1月1日）の平均値で除して算出

※3：市街化区域、都市機能誘導区域、居住誘導区域それぞれに存在するモニタリング時点の基準点における地価公示価格をもとに算出

# 目次

---

1. 目標指標とは
2. 目標指標の検討
3. 目標値の検討
4. 進行管理

## 4. 進行管理

- 目標指標及び目標値の設定後は、計画の進捗状況をPDCAサイクルに基づいて確認し、進捗を管理する。
- また、概ね5年ごとに施策の実施状況や目標値の達成状況を評価し、必要に応じて計画を見直す。

